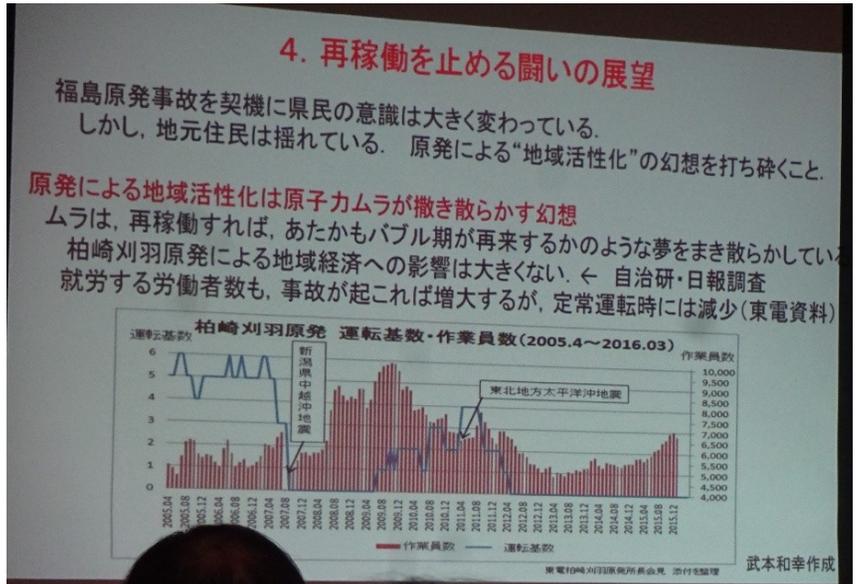


柏崎刈羽原発は極めて危険、原発に依存しない地域づくりをいませよ！ かしわさき自治体研究所が講演会開催



6日の夜、柏崎市で行われた「地域経済と原発を検証する講演会」(かしわさき自治体研究所主催)に参加してきました。100人を超える大勢の人たちが集まりました。

講演会では、最初に「『豆腐の上の原発』を動かしてはならない」というタイトルで新潟大学名誉教授の立石先生が約1時間にわたり講演されました。立石先生は、柏崎刈羽原発が「異常に厚い新生代の地層の上に立っている」こと、「大きな地震動が襲来する」こと、敷地内に膨大な地下水が流入していることなどについて詳しく説明しました。

また、県内各市町村で策定されつつある原発に関連する防災・避難計画について、世界最大の総出力821万キロワットを誇る柏崎刈羽原発は他の原発と同じく30^キ圏内の住民を避難させる計画でいいのか、複数基の同

立石先生の講演では、地下水流入に関して初めて聴いた人が多く、注目されました。私はこの日の午後に関催した、「橋爪法一を囲む会」で柏崎刈羽原発に働く労働者についてやりとりしていたので、労働者数は事故が起きると増大するが、定常運転時には減少するという話に引き込まれました。刈羽村議だった武本和幸さんがまとめた作業員数の推移は参考になりました。

2番目の講演は京都大学教授の岡田知弘先生(写真右下)でした。「原発に依存しない地域づくり」と題して話をされました。岡田先生は地域経済学が専門です。原発推進派のみなさんが、原発が止まっていると雇

時事故は想定されているのかなどと実効性に疑問だとし、「現場を知る住民自身が自らの命を守る課題として、計画を点検することが必要」だとの

用に影響が出るのか、地域経済が縮小するとか言っていて、再稼働に持つていこうとしていることについて、昨年12月に柏崎市で行った実態調査に基づき、詳細なデータを使って一つひとつ論破していかれました。この問題については新潟日報が昨年の12月13日付けの1面で地元100社を対象にした調査結果で67%は原発が止まっても影響ないと答えていることを紹介しています。



【アジサイの花?】浦川原区内で見かけた花。玄関先の比較的暖かい場所で白い花を咲かせていました。葉の形などからいってアジサイだと思うのですが、この時期に咲くかどうかとってしまうのです。

柏崎刈羽原発再稼働ストップめざすパンフ完成!

日本共産党新潟県委員会はこのほど、



「柏崎刈羽原発の再稼働をストップさせよう」というタイトルのパンフレットを作成しました。無料です。ご希望の方は橋爪までお知らせください。お届けします。

岡田先生は原発に依存しない地域づくりについて、玄海町や福島県内で開始されている地域循環型経済・エネルギーづくりの取組を紹介するとともに、「ブリ大根」に象徴される海と農山村の幸を地域資源にしたオールシーズン型観光まちづくり、再生可能エネルギーへのシフトに言及しました。

はしづめ法一の
活動レポート

No.1744 2016.2.14
発行編集 日本共産党前上越市議 橋爪のりかず
Tel 025-548-3628
通じないときは 090-5392-1961
E-mail hasiznyg@ruby.ocn.ne.jp
URL <http://www.hose1.jp/>

ブログ「ホーセの見
てある記」は
← こちら

橋爪法一 検索

春よ来い

第三九二回

やきもち

その日、シゲさんは、私の顔を見るなり笑いしました。私の顔がおかしかったわけでは
ありません。シゲさんが予想していた時刻よりも一時間ほど早く私が着いてしまった、
それにたいする「困り笑い」だったのです。

シゲさんはお連れ合いのカズさんとともにいました。ふたりのそばには石油ストーブ
があり、赤々と燃えていました。ストーブはかなり古いもので、上には餅焼き用の網が
置かれ、五、六個の「やきもち」（おやき）が焼かれてる最中でした。シゲさんはこの
「やきもち」を私に食べさせたかったのです。

一度はその場を離れようとしたのですが、私はシゲさんの気持ちをくんで少し待つこ
とにしました。実際のところ、ストーブの上の「やきもち」はかなり焼きあがってきて
いました。五分も待てば焼き上がりそうでした。

正直言って、時間はあまりなかったのですが、待ったおかげで「やきもち」をご馳走
になれただけでなく、「やきもち」づくりの一端を見ることができました。

コメをすりつぶし、ゆであげるところまでは見ていませぬが、ゆであがったものがこ
ねられ、大きな塊（かたまり）になっていました。シゲさんはそれを「やきもち」一個
分ずつちぎってギョウザの皮のようにのばし、そのなかに野沢菜漬けを詰め、「皮」で
覆ってしつかりと封じ込めていきます。両手で丸く固めた後、シゲさんは「いい子にな
れ、いい子になれ」と言いながら片方の手のひらでパンパンとたたいていました。

そうこうしているうちに、ストーブの上で焼いていたもののいくつかが焼き上がって
きました。こんがり焼き網のあとが付いたものを一個、手に取り、二つに割ると、野
沢菜漬けの匂いがふわーっとしてきました。片方をちぎって口に入れると、生のところ
はまったくなく、とてもいい味です。

食べ頃には近所の人も来られました。二〇年ほど前、スーパーイチョコヘソバと一緒に
「やきもち」を持っていったものなどといった話も出て、とても賑やかになりました。
「昔、やきもちと言えば、タテセンの下に出るくずゴメを使って作ったもんだ。それに
比べりゃ、いまはまともなうる米の粉を使って作るから、うんめのは当たり前さ」

カズさんがそう言うのと、今度は、最近、耳の遠くなったシゲさんが言います。
「粉一升に水七合入れて、ほして、鍋で煮るが……。水八合入れると、柔らかすぎる。
粉を煮て、真ん中からこうなつて粉、吹くと、天気、いいどつて」言ったもんさね」
シゲさんは両手を下から上へと動かし、粉がお湯とともに噴き上げていく様子を楽し
そうに語りました。

この日、シゲさんが作った「やきもち」は全部で一五個でした。握った「やきもち」
は、最初はほぼ同じ大きさでしたが、疲れが出てきてからは、だんだんでかくなりま
す。「やになれば、でかくなって」と誰かが言ったら、みんな同じようなことを体験
してきたのでしょうか、大笑いになりました。

シゲさんは、私の食べるところをずっと見ていて、食べ終わるとすぐに、「もうひと
つくらい食べられるだろう」と訊いてきました。そして、一緒に食べていたカズさんに
耳元の近くでやさしく声をかけました。「どんがんでした。うんめかつたかね」と。
シゲさんが夫に声をかける様子はとても素敵でした。カズさん九一歳、シゲさん八九
歳、長年連れ添ってきたからこそ醸し出されるいい雰囲気にも引き込まれました。そ
の場で私が一緒に食べた「やきもち」の味はずっと忘れることがないでしょう。

市内各地で囲む会開催

私は12月から市内各地で「はしづめ法一を囲む会」を開催しています。先週は、吉川区を中心に7会場
で開かせていただきました。

会では、私から安倍内閣の政治、上越市政の課題などについてスライ

ドを使って話題提供した後、参加者のみなさんと懇談させてもらっています。

懇談で出される話は国政のことから身近な市政のことまでじつに様々です。

10日に開催した「囲む会」では、中国や韓国との領土問題、介護保険改悪の現実、中山間地対策のこれまでと今後の方向、空き家対策などで次々と意見や質問が出て、スライドで市の要綱などを映し出して答える場面もありました。とても活発な意見交換になりました。

開催場所はこちらでお願いす



るケースがほとんどですが、私の後援会員のみなさんなどからの要望で出かけるケースもあります。できるだけ出かけるようにしますので、気軽に声をかけてください。

上越地域各消防署における空間放射線量測定結果

測定は毎日午前9時。数値はマイクロシーベルト。1時間当たりの測定量です。消防署によると、通常は1時間当たり0.016~0.16 μSv(マイクロシーベルト)だとのことです。

	2月3日(水)	2月10日(水)
上越南消防署	0.040	0.060
上越北消防署	0.057	0.053
新井消防署	0.040	0.050
頸北消防署	0.057	0.050
頸南消防署	0.057	0.063
東頸消防署	0.060	0.060
高士分遣所	0.050	0.053
名立分遣所	0.057	0.060

浦川原物産館近くでのスタンディング続く



浦川原物産館近くでのスタンディング、5日の朝も寒さに負けずに行われました。

前回は大荒れの天気中止となったので20日ぶりのアピールです。国会では違憲の安保法制(戦争法)を廃止する法案が提出される見込みとのこと、県内でも参院選に向けてふたたび世論が高まってきています。